

平成 2 5 年 度 決 算 に 係 る  
定 期 監 査 調 書

平成 2 6 年 5 月

倉吉総合看護専門学校

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1 頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1 頁
3	組織及び業務調べ	1 頁
4	職員の定員、現員調べ	1 頁
5	役付職員の調べ	1 頁
6	主な事業に関する調べ	2 頁
7	収入証紙取扱額調べ	4 頁
8	収入事務処理状況調べ	4 頁
	(1) 分担金及び負担金	
	(2) 使用料	
	(3) 手数料	
	(4) 財産収入	
	(5) 諸収入	
	(6) 現金の取扱状況	
9	収入未済額調べ	5 頁
10	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	5 頁
11	不納欠損額調べ	5 頁
12	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	6 頁
	(1) 負担金	
	(2) 補助金	
	(3) 交付金	
	(4) 委託料	
13	工事請負費調べ	7 頁
14	財産に関する調べ	7 頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の受払状況	
15	財産の貸付及び使用許可調べ	8 頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
16	借受不動産明細調べ	8 頁
17	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	8 頁
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
18	自動車（二輪を除く）の管理状況調べ	9 頁
19	寄附物件の受納状況調べ	9 頁
20	備品の処分状況調べ	9 頁
21	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	9 頁
22	当該年度における業務の概要	10 頁
23	学生の入退学等移動状況調べ	13 頁
24	学校卒業者の就職等状況調べ	14 頁
25	教育計画とその実績	14 頁
26	主な施設の整備状況調べ	14 頁
27	意見、要望	14 頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項 該当なし

(2) 監査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況

該当なし

3 組織及び業務調べ

局（所）名	課名	係（班）名	課の主な所掌事務
倉吉総合看護専門学校			看護師・助産師として必要な知識及び技能を習得させるための事務

4 職員の定員、現員調べ

（平成26年 4月 1日現在）

区分	種別	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
		当該年度	25.4.1現在	当該年度	25.4.1現在	当該年度	25.4.1現在	当該年度	25.4.1現在	
	定員	2	2	20	20	0	0	22	22	
	現員	2	2	20	20	0	0	22	22	
	過不足(△)	0	0	0	0	0	0	0	0	
	臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
	非常勤職員	0	0	25	24	0	0	25	24	外部講師24 助産学科（講師14/1～）

5 役付職員の調べ

（平成26年 5月 1日現在）

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
校長	(兼) 井藤 久雄	1	1	本務 厚生病院長
副校長	会見加代子	1	1	7年1月
教務課長兼教務主幹	大石由美子	1	1	12年1月
次長	(兼) 谷本 真二	4	1	出納員 保育専門学校次長及び中部療育園次長兼務
教務主幹	初田 玲子	2	1	
教務主幹	古磯 祥子	1	1	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概要	要
<p>倉吉総合看護専門学校費</p> <p>決算見込み額 37,076千円</p> <p>(財源内訳)</p> <p>使用料及び手数料 18,336千円</p> <p>一般財源 18,734千円</p> <p>その他 6千円</p> <p>○政策項目 学生の確保</p>	<p>1 学校のPR・学生の確保</p> <p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア)目的 看護職員不足が深刻化する中、一人でも多くの看護職員を養成するため、県民に学校の存在や魅力をPRすると共に優秀な入学志願者の募集に力を入れ、入学定員の確実な確保を図る。</p> <p>(イ)事業の実施状況</p> <p>○オープンキャンパスを開催した。2回 参加者数140名 ○本校PRのため県内高等学校・看護学校等の訪問を実施した。施設数 20施設 ○高等学校等で実施の進学相談会に参加しPRを行った。5回 参加者数 53名 ○社会人入学制度のPRのため、関係団体や医療機関への訪問・通知を実施した。医師会報・看護協会報への掲載 ○病院・産科婦人科を標榜する医療機関への通知 70施設 ○小学生・保護者を対象に健康教育を実施した。4回 参加者 70名</p> <p>イ 平成25年度の業務の実施にあたり改善等に取り組んだ点</p> <p>○県内に就業する助産師を確保するために、助産学科の一般入学試験に「鳥取県内枠3名」を設けた。看護学科・助産学科の優秀な学生を確保するために高等学校、看護師等養成機関に出向きPRを行った。 ○第1看護学科の定員確保のために、依頼のあった高等学校の進路説明会や学校訪問に応じた。また、地域住民の看護への理解を図るために、依頼のあった研修に講師を派遣した。</p> <p>ウ 成果</p> <p>○助産学科は、志願者が増加(38名→55名)した。また、一般入学試験の県内受験者は昨年度と比較し増加(6名→13名)した。各看護師等養成機関からの推薦者も昨年度と比較し増加(2名→5名)し、優秀な学生が確保できた。 ○第1看護学科は、優秀な推薦者16名を確保した。一般入学試験の受験者は、前年度と比較し減少(101名→80名)したが、学科試験の平均点は31.1点上昇した。 ○依頼のあった倉吉市内の小学校、東伯郡内の小学校・保育所2か所の4施設で、「命の教育」を実施した。小学生や保護者から命の大切さを学ぶ機会となったと好評を得た。 ○高校生を対象に行った講演では、看護師と准看護師の違いや助産師の養成機関、看護師の就業先について積極的な質問があり、看護師への関心を高めることができた。</p> <p>エ 課題</p> <p>○今後も優秀な学生を確保するために、少人数制で手厚い指導が実施できる当校のメリット、国家試験合格状況や就業・進学状況について様々な方法や機会を捉えてPRを行っていく必要がある。また、新設する看護大学や医療専門学校の入試状況や高校生の進路希望を把握していく必要がある。 ○テレビやホームページ等の媒体を活用したPRが効果的であるため、県医療政策課と協働して、看護学校への進学促進を図っていく必要がある。</p>	
<p>○政策項目 教育の質の向上</p>	<p>2 新カリキュラムに伴う教育内容の効果的実践</p> <p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア)目的</p> <p>看護学科</p> <p>①看護実践力の向上に重点を置いた「客観的臨床能力試験」「医療安全教育」「統合実習」を実施し、教育内容の充実・強化を図る。 ②多岐にわたる実習施設の指導者と連携を図り、学習支援を充実する。</p> <p>助産学科</p> <p>①分娩経過をアセスメントし、安全な分娩介助ができるよう教育内容を強化する。 ②実習施設の指導者と連携を図り、学習支援を充実する。</p>	

事業名	概	要
	<p>(イ)事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○客観的臨床能力試験（OSCE試験）の充実 平成22年度から、患者の安全と気遣いをしながら日常生活援助や診療補助技術が提供できるよう、先駆的なOSCE試験を実施した。OSCEⅠは、到達度を確認した上で臨床実習に臨ませた。OSCE試験Ⅱは、最高学年に実施し、到達度を確認した。今年度はより学生の到達度の状況がわかるよう、OSCEⅠの評価項目を改善し実施した。</li> <li>○医療安全学習の充実 安全な看護を提供できる判断力や実践力を養うために、地域住民に模擬患者を依頼（12名）し、多重課題・業務中断の条件下で安全に看護を提供できる演習に取り組んだ。</li> <li>○統合実習の充実 卒後スムーズに臨床現場に適応するために、学生チームで複数の患者を受持ち、優先度の決定、時間管理が修得できるように、「統合実習(90時間)」の実習方法等を実習施設と協議した。定員増により学生数が増加したが新たな病棟にも依頼し終了することができた。</li> <li>○今年度新たに開拓した実習施設(看護学科：在宅看護論実習施設 2施設)をはじめとする多岐にわたる実習施設と定期的な会議を開催した。また、平成26年度から実習を依頼する新たな在宅看護論実習施設を開拓した。</li> <li>○助産実習にあたり、3施設の実習指導者が参加し分娩介助演習を行った。また、分娩介助の技術チェックを行い、学生ごとの到達度を把握した。異常妊産婦への対応、新生児の救急に対応できるよう演習を組み入れた。</li> </ul> <p>イ 平成25年度の実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○統合実習の臨床実践能力の有効性を検証するために、平成23年度卒業生を対象にアンケート調査を実施し、成果をまとめ学会で発表した。さらに、平成24年度の卒業生を対象にアンケート調査を実施した。</li> <li>○平成26年度の新たな在宅看護論実習施設に実習の依頼を行った。</li> <li>○産婦が希望する出産体位での介助やリスクが低い産婦の分娩介助の機会が増えるよう診療所に実習を依頼した。</li> </ul> <p>ウ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○第52回全国自治体病院学会に投稿した「統合実習」の看護研究が採択され、発表した。卒業した学生は「時間管理」「協働」「情報共有」「優先順位の決定」に役立つと評価し、統合実習が職場適応を促進する機会となっていることが明らかとなった。</li> <li>○OSCEⅠでは改善した評価項目を用いて試験を実施し、学生ごとの到達度がより明確になった。</li> <li>○医療安全に参加した模擬患者役の住民から「(安全な医療のための)教育を知った」「また、参加や協力したい」と良い評価を得た。</li> <li>○助産学科は卒業に必要な正常分娩の介助を、学生一人当たり10例行うことができた。</li> <li>○平成26年度の看護学科の新たな在宅看護論実習施設として訪問看護ステーションを開拓し、厚生労働省から認可を得た。</li> </ul> <p>エ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○更なる教育内容の充実に向けて、各実習施設と綿密な連携を図り、効果的な実習が展開できるように課題を整理し、改善していくことが必要である。</li> <li>○異常妊産婦への対応や新生児の救急の学習をより充実するために、新生児蘇生「専門」コースインストラクターの資格を有する外部講師の活用をする。</li> </ul>	

7 収入証紙取扱額調べ

(平成26年 1月31日現在)

収入科目			件数	単価	証紙はりつけ額	備考
目	節	細節				
衛生手数料	衛生手数料	看護師等養成施設試験手数料	198	2,600	514,800	平成26年度入試 助産学科 55名 第1看護学科 108名 第2看護学科 35名
		看護師等養成施設入学料	71	5,550	394,050	平成25年度入学 助産学科 16名 第1看護学科 35名 第2看護学科 20名
		看護師等養成施設卒業証明書発行手数料	41	420	17,220	
		計(節)	310		926,070	
	目計	310		926,070		
	合計	310		926,070		

8 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料

(平成26年 1月31日現在) (単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
衛生使用料	倉吉総合看護専門学校授業料		1,932	17,860,000	13,625,300	0	4,234,700	看護師等養成施設設置条例第4条	
	目計		1,932	17,860,000	13,625,300	0	4,234,700		
	合計		1,932	17,860,000	13,625,300	0	4,234,700		

(3) 手数料 該当なし

(4) 財産収入 該当なし

(5) 諸収入 該当なし

(6) 現金の取扱状況 該当なし

9 収入未済額調べ

(平成26年 1月31日現在)

(単位：円)

区分 収入科目			過年度分						現年度分			収入未済 額計 A+B	未收理由	
			前年度 以前か らの繰 越額	左のう ちの収 入済額	不納欠 損額	収入 未済額 A	収入未済額の 調定年度内訳			調定額	収入済 額			収入 未済額 B
							22年度 以前	23年度	24年度					
目	節	細節												
衛生使 用料	倉吉総合看護専 門学校授業料		0	0	0	0	0	0	0	17,860,000	13,625,300	4,234,700	4,234,700	納期未到来 2,838,800 未収額(※1月分) 1,395,900 ※2月21日をもって 全額収納済み
目計										17,860,000	13,625,300	4,234,700	4,234,700	
合計										17,860,000	13,625,300	4,234,700	4,234,700	

10 未収金回収促進のための取り組み状況調べ 該当なし

11 不納欠損額調べ 該当なし

1.2 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(1) 負担金

(平成26年 1月31日現在)  
(単位：円)

予算科目 (目)	予算令達額	負担金の名称	支出先	負担率	(支出年月日) 支出金額	支出の根拠法令 名等(規約、要領 等を含む)	備考
倉吉総合看護専 門学校費	100,000	全国助産師教育 協議会年会費	一般社団法人 全国助産師教育協議会	定額	(H25.4.26) 100,000	一般社団法人 全国助産師教育協議会定款	
支出金額が10万 円未満のもの					401,950		
目 計					501,950		
合 計					501,950		

(2) 補助金 該当なし

(3) 交付金 該当なし

(4) 委託料

(平成26年 1月31日現在) (単位：円)

予算科目 (目)	国補 単 の 別	委託料の名称	委託契約の 相手方	当 初 契 約			入札等 年月日 (契約保証金納付 等年月日)	完 了 年 月 日	支 出 の 状 況			備 考
				予定価格	(契約年月日) 契 約 額	契 約 期 間			支 出 区 分	支 出 年 月 日	金 額	
				変 更	契 約 ( 最 終 ) (契約年月日) 契 約 額	契 約 期 間						
(倉吉総合看護 専門学校費) 予定価格が 20万円未満											126,000	
目 計											126,000	
合 計											126,000	



13 工事請負費調べ  
該 当 な し

14 財産に関する調べ

(1) 公有財産  
ア 土地 該 当 な し

イ 建 物

(平成26年 1月31日現在)

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況						差引		備考
			目 計面積 (㎡)	価額 (円)	増減 別	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減 理由	登 記 年月日	面積 (㎡)	価額 (円)	
行政 財産	本館	倉吉市南昭和町15	974.50	101,144,000		H				H	974.50	101,144,000	
	大会議室・浴槽・機械室	"	314.19	34,692,000		H				H	314.19	34,692,000	
	寄宿舎	"	1,520.93	167,558,000		H				H	1,520.93	167,558,000	
	物干場	"	54.00	748,000		H				H	54.00	748,000	
	ﾌﾟﾗﾝｸﾞﾝ庫・機械室	"	14.40	360,000		H				H	14.40	360,000	
	自転車置場	"	13.50	510,000		H				H	13.50	510,000	
	体育館	"	245.29	25,266,225		H				H	245.29	25,266,225	
	渡り廊下	"	18.14	—		H				H	18.14	—	価額は、体育館価額に含まれる。
	実習棟	"	395.38	68,847,043							395.38	68,847,043	
	渡り廊下	"	17.20								17.20		価額は、実習棟価額に含まれる。
計			3,567.53	399,125,268							3,567.53	399,125,268	
普通財産			0.00			H				H	0.00		
						H				H			
計													
合計			3,567.53	399,125,268							3,567.53	399,125,268	

- ウ 山林 該当なし
- エ 動産（船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機） 該当なし
- オ 物権 該当なし
- カ 無体財産権（特許権、著作権、商標権、実用新案権等） 該当なし
- キ 有価証券 該当なし

(2) 金券類の受払状況  
ア 金券の受払状況

(平成26年 1月31日現在)

種 別	前年度末	本 年 度 中		差 引	備 考
		購 入 額	使 用 額		
郵便切手及び 郵便はがき	円 52,880	205,920	180,650	78,150	
合 計	52,880	205,920	180,650	78,150	

イ タクシーチケットの受払状況

(平成26年 1月31日現在)

前年度末未使用枚数	本 年 度 中		差引未使用枚数
	購 入 枚 数	使用枚数及び金額	
枚	枚	295 枚	枚
87	300	258,190 円	92

15 財産の貸付け及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物

- ア 土地 該当なし
- イ 建物 該当なし

(2) 物品 該当なし

16 借受不動産明細調べ 該当なし

17 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ

- (1) 職員住宅 該当なし
- (2) 職員駐車場 該当なし

18 自動車（二輪を除く）の管理状況調べ

(平成26年 1月31日現在)

車種	年式	登録番号	取得年月日	総走行キロ数	本年度			備考
					稼働日数	(1ヶ月平均) 走行キロ数	修理費等	
軽自動車 (貨物)	H14	鳥取41い9647	H24.1.13	km 31,751	日 136	(277.9) km 2,779	円 33,174	
合計		台 1					33,174	

19 寄附物件の受納状況調べ 該当なし

20 備品の処分状況調べ 該当なし

21 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(平成26年 1月31日現在)

現金、有価証券 又は物品名	数量	金額	出納員又は 使用者職氏名	亡失、損傷 年月日、時	同左場所	同左概要	報告年月日	会計局の 審査概要
図書	4冊	90,562円	出納員 谷本真二	平成25年8月	図書室	平成25年8月図書室の図書の整理 をする中で亡失していることを確認し た。		「現金（有価証券） 又は物品を亡失損傷 した場合の取扱いに ついて」の記の5の (2)により省略

## 看護専門学校個別事項

### 2.2 当該年度における業務の概要

#### (1) 学校のPR、地域貢献（主な事業に記載）

学校のPR、地域貢献を積極的に行い、学生の確保を図る。

- オープンキャンパスの実施 2回 参加者140名
- 県内高校・看護学校へ学校PRのための訪問を実施 施設数 20施設
- 医師会、看護協会、医療機関等への社会人入学制度PRのための通知を実施
- 進学相談会等への参加 5回 参加者数 53名
- 教員による健康教育の実施
  - 倉吉市内小学校 3年18名、保護者11名
  - 東伯郡内小学校 3年10名、教員3名
  - 東伯郡内保育所 年長保護者10名 保育士4名
  - 東伯郡内保育所 1歳児保護者14名

志願者数（推薦・社会人含む）		（ ）内は定員	
年度	助産学科	第1看護学科	第2看護学科
20	61 (20)	102 (25)	42 (20)
21	43 (16)	76 (25)	35 (20)
22	60 (16)	114 (25)	42 (20)
23	43 (16)	125 (35)	31 (20)
24	52 (16)	100 (35)	48 (20)
25	38 (16)	133 (35)	47 (20)
26	55 (16)	108 (35)	38 (20)

※平成21年度から助産学科(助産師課程)を新設し、定員を変更(定員20名→16名)

※平成23年度から第1看護学科を定員増(定員25名→35名)

#### 推薦入学・社会人入学の状況

学 科	推薦入学試験			社会人入学試験		
	募集数	推薦者	合格者	募集数	志願者	合格者
助産学科	6	5	5	3	6	0
第1看護学科	18	19	16	—	—	—
第2看護学科	3	2	2	3	3	0

#### (2) 教育環境の整備

図書の有効活用を図るために、非常勤職員を採用し夏季期間中に蔵書の整理を行った。

#### (3) 看護教育の充実

新たに導入した教育内容の充実を図る。

○全ての学科において、平成23年度から新カリキュラムに移行。(主な事業に記載)

##### 1) 看護学科

\* 客観的臨床能力試験(OSCE)の導入

患者に安全と気遣いをしながら日常生活援助が提供できるようOSCEを計画・実施した。

\* 安全な看護を提供できる判断力や実践力を養うために医療安全の学習内容を「看護の統合と実践」の科目に位置づけ、実施した。

\* 卒後スムーズに臨床現場に適応するために、チームで複数患者受持ち、優先度の決定、時間管理が修得で

きるように「統合実習(90時間)」を計画・実施した。

## 2) 助産学科

\*安全な分娩介助ができるよう、実習前の分娩介助演習に3施設の実習指導者が参加した。また、分娩介助の技術チェックを学生ごとに実施し、到達度を把握した。異常妊産婦への対応、新生児の救急に対応できるよう演習を実施した。

\*正常な分娩介助が学べるよう診療所での実習を行った。

\*全国の助産師学校でも取り組みが少ない思春期の学童(小学校)を対象にした「命の教育」を実践した。

○全国的に注目されている講師を招いて魅力ある授業を実施し、学生の専門職としての意識を高める。

看護学科 日程 平成26年2月25日  
講演 「国際看護について」  
講師 東邦大学看護学部 教授 近藤麻理

助産学科 日程 平成26年1月9日  
講演 「DVが健康に及ぼす影響－医療従事者ができること－」  
講師 神戸市看護大学助産学専攻科 教授 高田昌代

## (4) 実習体制の整備

実習体制を整備し、教育内容の充実を図る。

○今年度新たに開拓した実習施設(看護学科：在宅看護論実習施設 2施設)での実習がスムーズにできるように前年度から実習計画・実習配置等を検討した。

○看護学科の新たな在宅看護論の訪問看護ステーションを開拓し、厚生労働省に許可を得た。

○実習指導者会を定期的開催し、実習指導者と教員の連絡調整をきめ細かく実施した。

○実習施設や実習指導者の教育への理解を深めるために、実習指導者養成講習会の講師や実習施設等の研修への協力を積極的に行った。

## (5) 国家試験対策の強化

○国家試験対策として、特別授業や模擬試験を実施し、知識の定着とエビデンス(科学的根拠)の強化を図る。

【参考：平成25年度国家試験合格状況】

学 科	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国合格率(%)
助 産 学 科	16	16	100.0	96.9
第1看護学科	35	33	94.2	89.8
第2看護学科	18	18	100.0	

## (6) その他の教育

○人権教育の実施(看護学科)

ア 研修旅行(7/4~7/5) 長島愛生園、人と防災未来センター見学

イ 人権関係講義の実施

講演：「インターネットと人権」

講師：鳥取県ケータイ・インターネット教育推進委員 法務省人権擁護委員 今度珠美

対象：看護学生と教員 11月7日 70名、3月7日 91名

○専門的学術集会等への参加(助産学科)

ア 第54回日本母性衛生学会学術集会参加(10/4~10/5) 埼玉県大宮市

イ 第32回鳥取県母性衛生学会学術講演会参加(1/30) 米子コンベンションセンター

## (7) スクールカウンセラーの配置(平成19年度から配置)

毎週月曜日 午後4時~5時30分 利用者数 実人員 1人 延べ1人(H26.1.31現在)

(8) 教員研修の実施

第50回中国地区看護教育協議会開催(当番校)

日時：平成25年8月1日(木)・2日(金)

参加者：中国地区の県が設置する看護師養成所及びその実習施設、県関係行政機関 65名

内容：分科会及び講演会

講演：「若者が社会人として育つために」

講師：日本海情報ビジネス専門学校 校長 中永 廣樹

(9) 教員の研究活動等

①第52回全国自治体病院学会

発表者：講師 尾田恵

テーマ：「新人看護師からみた統合実習の効果－複数の患者を学生チームで受け持つ方法を取り入れて－」

日時・場所：平成25年10月18日

②第1回鳥取県実習指導者養成講習会

講義：副校長 会見加代子、教務主幹 初田玲子、教務主任 西川淳子 石前紅子

講師 森井真紀子

グループワーク：講師 岡本志保 尾田恵

日時・場所：平成25年7月24日～9月20日 鳥取県看護協会

③第2回 鳥取県実習指導者養成講習会

講義：副校長 会見加代子、教務主幹 初田玲子、教務主任 西川淳子 石前紅子 渋谷さおり

グループワーク：講師 岡本志保 河口和子

日時・場所：平成26年1月9日～3月7日 鳥取県看護協会

④鳥取県立厚生病院ラダー研修 講師

講師：副校長 会見加代子

テーマ：「ヘンダーソンの看護理論」

日時・場所：平成25年5月1日 平成25年5月16日 鳥取県立厚生病院

対象：厚生病院看護師 25名

⑤鳥取県立厚生病院ラダー研修 講師

講師：教務主幹 初田玲子

テーマ：「臨床実習における学生指導」

日時・場所：平成25年7月18日 鳥取県立厚生病院

対象：厚生病院看護師 18名

⑥ウエルフェア北園渡辺病院 看護師研修

講師：教務主幹 初田玲子

テーマ：「若者気質と教育」

日時・場所：平成25年7月3日 ウェルフェア北園渡辺病院

対象：看護師 約60名

⑦鳥取県立厚生病院 看護研究支援

講師：教務主幹 初田玲子 教務主任 石尾由美

日時・場所：平成25年5月11日、18日 鳥取県立厚生病院 (看護師18組)

平成25年8月31日 鳥取県立厚生病院 (看護師12組)

平成25年11月2日 鳥取県立厚生病院 (看護師11組)

平成25年12月21日 鳥取県立厚生病院

⑧鳥取県立中央病院 看護研究支援

講師：教務主幹 初田玲子

日時・場所：平成25年6月8日 鳥取県立中央病院 中央病院看護師 14名

平成26年1月18日 鳥取県立中央病院

⑨一般社団法人鳥取県助産師会勤務部会研修会

講 師：講師 浦川智江

テーマ：「思春期セミナー伝達講習」

日時・場所：平成25年11月9日 米子市福祉保健センター

⑩倉西 チャレンジグループ活動

講 師：講師 小寺理恵

テーマ：「看護について」

日時・場所：平成25年5月20日 倉吉西高等学校

対 象：倉吉西高校2年生33名 教員2名

⑪認定看護管理者ファーストレベル研修

講 師：教務主幹 初田玲子

テーマ：「レポートの書き方」

日時・場所：平成25年4月18日 鳥取県看護協会

2.3 学生の入退学等移動状況調べ

(単位：人) (平成26年 3月31日現在)

区 分	入学進級 直後の 学生数	月 別 異 動 状 況														差 引 現在数	備 考
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計			
第1 看護 学科	第1学年 休学	36														35	H25年度 1名復学
	退学						1										
	復学														1		
	除籍																
	第2学年 休学	34 休学者 1													35	休学者は H25年度 1年間休学	
	退学																
	復学																
	除籍																
	第3学年 休学	36													36		
	退学																
	復学																
	除籍																
第2 看護 学科	第1学年 休学	20 (復学予定者 1)													20		
	退学												1	1			
	復学								1					1			
	第2学年 休学	18 進級後													18		
	退学																
	復学																
助産 学科	休学	16 新入生													16		
	退学																
	復学																
	除籍																
合 計	休学	162 新入・進級者													160		
	退学						1						1	2			
	復学								1					1			
	除籍																

※ ( ) 書きは、外数

2.4 学校卒業者の就職等状況調べ

(単位：人) (平成26年 3月31日現在)

区分		就職						計	進学	その他	合計	備考
		就 内			就 外							
		公的医療機関	民間医療機関	その他	公的医療機関	民間医療機関	その他					
第1看護学科	平成22年度	17	5	—	—	1	—	23	2	—	25	
	平成23年度	13	6	—	1	—	—	20	3	—	23	
	平成24年度	10	5	—	—	—	—	15	5	—	20	
	平成25年度	19	6	—	—	4	—	29	4	2	35	
第2看護学科	平成22年度	6	11	—	—	1	—	18	1	—	19	
	平成23年度	7	12	—	—	1	—	20	1	—	21	
	平成24年度	10	9	—	—	1	—	20	—	—	20	
	平成25年度	2	13	—	1	1	—	17	—	1	18	
助産学科	平成22年度	7	1	—	2	6	—	16	—	—	16	
	平成23年度	5	2	—	3	5	—	15	—	—	15	
	平成24年度	8	—	—	4	3	—	15	—	1	16	
	平成25年度	5	2	—	1	8	—	16	—	—	16	
合計	平成22年度	30	17	—	2	8	—	57	3	—	60	
	平成23年度	25	20	—	4	6	—	55	4	—	59	
	平成24年度	28	14	—	4	4	—	50	5	1	56	
	平成25年度	26	21	—	2	13	—	62	4	3	69	

2.5 教育計画とその実績

(単位：時間) (平成26年 3月31日)

学科名等	基準	第1学年		第2学年		第3学年				
		計画	実績A	計画	実績B	計A+B	計画C	実績C	計A+B+C	
第1看護学科	第1学年	学 科	990	1,009	1,014					
		実習課程	135	135	135					
	第2学年	学 科	750		757	759	1,769			
		実習課程	315		315	315	450			
	第3学年	学 科	225					226	240	2,013
	実習課程	585					585	585	1,035	
第2看護学科	第1学年	学 科	1,185	1,185	1,190					
		実習課程	135	135	135					
	第2学年	学 科	285		285	288	1,478			
		実習課程	585		585	585	720			
助産学科	学 科	600	665	686						
	実習課程	495	612	577						

\* 基準欄の数値は学則で定めた時間

2.6 主な施設の整備状況調べ 該当なし

2.7 意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等

- 第1看護学科の学生定員の増により、平成25年度には第1看護学科の学生が全体で30名増加した。平成25年度に第1看護学科の講師1名が定数増となったが、奨学金や修学資金の手続き、外部講師謝金の支出負担行為、図書室の管理、寮の管理等の多くの教務事務を担っている。引き続き、教員が教育に専念できる体制を整えていただきたい。
- 助産学科は現在教員3名の体制で運営している。実習施設7施設のうち2施設は東部地区にある。また、夜間も実習施設に出向き、分娩介助の指導を行っている。効果的な学習支援のために教員の定数増をお願いしたい。

(2) 監査委員事務局に対する要望等 該当なし